

実践例「学習指導の充実・深化」

「課題5 興味や関心をもちながら学習に向かう児童の育成」

I 学校名 せたな町立久遠小学校【檜山管内】

II 研究の概要

1 研究主題

振り返りを通し、興味や関心をもちながら主体的に取り組む児童を育てる授業の創造
～自己の取り組みを捉え、主体的で深い学びを促す～

2 主題設定の理由

本校の教育目標は、「よく考え勉強する子」「思いやりのある子」「最後までやりぬく子」「体をきたえる子」であり、今年度の重点教育目標は「興味や関心をもちながら学習に向かう児童の育成」である。

今年度の研究を推進するに当たっては、年度の重点教育目標の達成に向けて取り組み、昨年度までの研究を生かし、児童のさらなる深い学びにつなげていきたいと考える。

本校の児童は、素直で何事にも一生懸命取り組んでいて、学年関係なくみんながお互いを思いやり、仲良く明るく学校生活を送っている。また、全校児童で遊んだり、上級生が下級生の面倒をみたりするなど、互いを思い合い、他者に優しく接することができている。

学習においては、1人の学年や、2～4人で学習する学年もあり、人数が少ないゆえに同学年からの刺激が少なく、考える幅がせまくなることもある。自分なりの考えをもつこともできるが、いくつかの考えから自分の考えをふくらませることが難しいなど、少人数が故の課題もある。

このような中で、児童が振り返りを行うことで、分かった・できたことへの喜び、もっと知りたいという知的好奇心などの思いを児童がもち、主体的に学習に取り組む態度を育成することを通じて、少人数でも深い学びを促せると考え、本主題を設定した。令和4年度、令和5年度の校内研究の成果や、CRTの結果をもとに、令和6年度についても算数を中心に研究することにした。



3 研究仮説

児童が振り返りを行うことで自らの学習を捉え、どのように取り組んでいくべきか主体的に学ぶ力を育成することで、深い学びを促すことができるだろう。

4 研修内容と具体的取り組み内容

① 理論研究

- ・本校の研究に関わる情報の収集と資料の活用
- ・算数の授業における振り返り活動の研修
- ・ICT及び1人1台端末の効果的な活用

② 授業研究

- ・各クラスの授業研究
- ・「授業づくりの約束」の確認
- ・ICT及び1人1台端末を効果的に活用した授業実践

Ⅲ 実践例

1 公開研究大会から

11月19日に檜山へき地複式教育研究大会が行われた。檜山管内、渡島管内から多くの先生方の参加があった。

参観の視点は「柱1 主体的な学びを実現するための『振り返り』活動の工夫や既習事項との関連付けについて」と、「柱2 学びを深めるためのICTの効果的な活用について」で、授業後の討議では活発に意見が交わされた。

2 研究大会での学習

(1) 単元名

<5年生>

- 比べ方を考えよう (1)

<6年生>

- 比例の関係をくわしく調べよう

(2) 目標

<5年生>

- 速さは単位量当たりの大きさの考えを用いて表せることを図や式を用いて考え、説明することができる。

<6年生>

- 反比例の意味について理解する。

(3) 本時の展開

5年生		6年生				
過程	学習活動及び内容	教師の関わり ○評価☆研究との関連	わたり	教師の関わり ○評価☆研究との関連	学習活動及び内容	過程
深める 10分	①復習問題に取り組む。 ・プリントの問題を解く。	・前時までの学習問題「込み具合」についての復習問題		☆研究との関わり	①前時の学習を振り返る。 ・前時の学習内容を振り返る。 ・前時の振り返りを発表する。	つかむ 10分
				問：xとyは、どのような変わり方をしますか。		
つかむ 10分	②前時の学習を振り返る。 ・前時の学習内容を振り返る。 ・前時の振り返りを発表する。③P32①②について考える。 ・デジタルコンテンツ、デジタル教科書の活用。	☆研究との関わり		・P166A、B、P167Cの図を黒板に貼る。	②P166A、B、P167Cについてどのような変わり方をしていくか調べる。 ③学習課題を把握する。	考える 15分
				○2つの数量の変わり方に興味をもち、表を使ってその関係を調べようとしている。 (態度) 【観察・ノート】	④解決への見通しをもつ。 ・どこに注目するか。 ・比例との違い	
				・ミニ先生の活用 ・A、B、Cのxとyの関係を表す表	⑤変化の決まりを考える。 1. 自力解決 2. 3人で相談して解決する。 ・xの値が2倍 yの値 $30 \div 60 = 1/2$ ・xの値が3倍 yの値 $20 \div 60 = 1/3$ ・xの値が4倍 yの値 $15 \div 60 = 1/4$	
					問：えみさんと弟ではどちらが速いでしょうか。	

	<ul style="list-style-type: none"> デジタル教科書で挿絵、表の確認をする。 					
	<p>課：時間も距離もちがうときの、速さの比べ方を考えよう。</p> <p>④学習課題を把握する。</p> <p>⑤解決への見通しをもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> どこに注目するか。 速さを比べるには、何と何がわかればよいか。 	<p>○速さの比べ方を、</p> <ul style="list-style-type: none"> 時間と距離の2量を基に、単位当たりの大きさの考えを用いて考えようとしている。(態度) <p>【観察・ノート】</p>				
考える15分	<p>⑥図や式を使って、速さの比べ方を考える。</p> <p>ア：1秒当たりに何m走ったかで比べる。</p> <p>弟：$80 \div 16 = 5$</p> <p>えみ：$100 \div 18 = 5.55\dots$</p> <p>えみさんの方が走った距離が長い＝えみさんが速い</p> <p>イ：1m当たりに何秒かかったかで比べる。</p> <p>弟：$16 \div 80 = 0.2$</p> <p>えみ：$18 \div 100 = 0.18$</p> <p>えみさんが速い</p> <p>⑦自分の考えを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"> どのように考えたのか説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> 別の比べ方はできないか考えさせる。 比べ方は2種類ある ○単位当たりの大きさの考え方を基に、速さの比べ方を図や式を用いて考え、説明している。 <p>(思・判・表) 観察・ノート</p>		<p>⑥自分の考えを発表する。</p> <p>⑦本時のまとめをする。</p>		
	<p>ま：xの値が2倍、3倍…になると、それともななってyの値が1/2倍、1/3倍…になるとき、「yはxに反比例する」という。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○反比例の意味を理解している。(知・技) <p>【観察・ノート】</p>		<p>⑧学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 発表→次時へつなげる。 	まとめる・振り返る10分	
まとめる・振り返る10分	<p>⑧本時のまとめをする。</p> <p>ま：速さは、ならした1秒間あたりに走ったきよりや、1mあたりにかかった時間を調べれば、比べることができる。</p> <p>⑨学習の振り返りをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> 発表→次時へつなげる。 	<p>☆研究との関わり</p>		<ul style="list-style-type: none"> 反比例の問題に取り組ませ、反比例の意味、xとyの関係の理解を深めさせる。 	<p>⑨復習問題に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> 反比例の復習問題に取り組む。(プリント) 	深める10分

3 檜山へき地複式教育研究大会の成果と課題

討議の柱1 主体的な学びを実現するための「振り返り」活動の工夫や既習事項との関連付けについて

① 「振り返り」について 〈成果〉

- これまで振り返り活動を工夫した指導を積み重ねてきたことで、児童は振り返り活動に慣れ、学習内容の定着や自己評価に役立っていると同時に、次時の学習への意欲の喚起につながることができた。
- 前時の振り返りを思い出すことやノートを確認することで、本時の課題に意欲的に取り組みやすくなる成果があった。
- これまでの積み重ねから児童同士の交流がよくできていて、児童の考えの幅が広がっていることが考えられる。
- 教師が見通しをもって授業を進めることで、効果的な振り返りができた。
- 5年生は振り返りの場面で、6年生と交流ができ、自分以外の考えに触れることができた。



〈課題〉

- 振り返りに ICT（1人1台端末）を取り入れて活動の充実を図る必要がある。

② 「主体的な学び」の実現について

〈成果〉

- 6年生の授業では、3人が自発的に協力しながら課題解決できていた。
- 日常の授業の成果が現れており、自分たちで学習を進めることができていた。
- 5年生は、効果的にデジタルコンテンツを活用することで、既習事項の提示や確認をすることができた。また、児童が見通しをもって学習することにつながることができた。
- 6年生女子児童の表情や取り組む様子から意欲的に学習に向かう姿勢が見られた。
- 公開授業にかかわらず、日常より当たり前のことを積み重ねる実践を大切にして取り組んできた。授業の準備や組み立て、「授業づくりの約束」の徹底や「振り返りの視点」を意識することの重要性を確認することができた。
- 児童が授業の中で、自分たちで学習を進める時間帯を意図的に設定することで、自ら進んで学習に取り組む態度の育成につながった。

③ その他

〈成果〉

- 教材研究がしっかりできている。
- 掲示物、デジタルコンテンツなど教材の工夫が随所に見られた。
- 教師や支援員の関わりは、それぞれの役割で子どもに合わせできていた。必要以上にかかわることなく、自力解決を促していた。問題把握の時も丁寧に行われていた。



討議の柱2 学びを深めるための ICT の効果的な活用について

〈成果〉

- AIドリルは、復習や習熟を図る場面での活用で大きな成果をあげられる。

〈課題〉

- ICTを活用した振り返りを工夫する必要がある。
- ICTの活用による教材研究や授業準備の時間の縮減につなげる必要がある。
- ICTの活用に関わる研修（校内、校外含めた）への参加や、授業での使い方について日常的に交流する必要がある。
- 教材、ノートや記録、写真をクラウドに保存したり写真を蓄積し、teamsを活用してデータ共有したりする必要がある。

IV 終わりに

3年次計画の3年目を迎えた本校の研究は、これまでに積み上げてきた成果が少しずつ見られている。児童は、学年に応じた振り返りを行えるようになり、自分の取り組みを自ら把握することができている。教師は、振り返りを取り入れた授業を行うことにより、児童の理解度を捉えやすくなり、授業に活かすことができた。

振り返り活動の研究は算数科で行ってきたが、他教科でも取り入れている。今後も振り返り活動は、本校の学習や各活動において継続して行い、児童の深い学びにつながるよう実践を重ねていきたい。